

また、雨具の一種にポンチョというものがある。これは大きな四角いシートの中央に頭の入る開口部とフードを付けただけの実に簡単なものだが、バックパックを背負った上から羽織ることができるので、これと折り畳み椅子などを併用すれば座って快適に全身を雨から護ることが可能だ。

多少かさばるが服型をしたレインウェアよりは安価で脱ぎ着も楽なので試してみてもよいだろう。特に上着に防水性が無い場合には周囲から飛んでくる雨水避けとして有用だ。

スノーボード用のウェア類も防寒および防水性と動きやすさを兼ね備えているので、会場内で脱ぐことを考えればオススメできる。

もちろん、定番の防水スプレーも活用しよう。

防水スプレーは吹いたらすぐにドライヤーの温風に当てるか、低温のアイロンをかけると一層効果が増す。

とはいえ、防水スプレーはほとんどの場合、少しかかった水をはじく以上のものではない。いくら念入りにスプレーしても、直接雨に当たると僅かな時間しか効果が持続しないので、本格的な雨が想定される場合にはやはり素材自体が防水性を持ったものを用意したい。

元々防水性のある傘や衣服やカバン、靴などにきちんとスプレーをしてもう一ランク性能を向上させるのがもっとも効果的な方法だ。

さて、次は以外とおそろかにされがちな下半身の雨対策を考えよう。

先にも述べたが、傘をさしていても足は濡れてしまうし、特に足元は、地面に水が溜まっていることも多く直接水がかかる場所でもあるので防水が難しい。

完全な防水を考えるならば、ゴム長靴はともかくとしても防水層のあるブーツやスポーツシューズ(トレッキングシューズ、スノーブーツ類)を用意しておく必要があり、結局はそれが一番である。『撥水』程度の性能のものは、新品以外では長時間の待機にはほとんど役に立たない。

そういった場合はせめてもの対策として靴下を選ぼう。

アクリルやポリエステル繊維、ウールなどの素材製で毛足の長いものであれば、たとえ靴が濡れていても足自体が過度に冷えることをある程度防止してくれる。

加えて、優れたクッション製なども有して歩行の疲労を大きく軽減してくれる。登山やハイキング用の靴下なら、そういった高性能のものが数多く存在する。

それでも、濡れた靴を長時間履きつづけることは靴ズレやマメなど多くのフットトラブルの原因になりやすいので、可能なら靴下だけでなく靴自体も2足持参するか、前述の防水靴の用意を薦めたい。

ズボンについては、ナイロンやポリエステルなどの化学繊維素材で裏にメッシュや起毛の裏地のあるものか、同様の化学繊維が混紡されたものを着用するのがよい。

逆に、雨の場合にはジーンズ製のウェアは上下ともに一度濡れると非常に乾きにくく、ほぼ1日中体温を奪い続けて激しく身体を疲労させるため、全くお薦めできない。

それでもどうしても、というなら雨の中長時間の行列を想定している場合はジーンズの上に穿くレインウェアや防水のオーバーパンツを用意していくか、直接濡れたジーンズが肌に触れないよう化学繊維やウールのタイト型のアンダーウェアを着用していこう。

女性陣も、ストッキングやタイツの予備を忘れずに！

## アウトドアショップへ行ってみよう！

このコーナーではとにかく綿製のウェアを否定し、アウトドア用のウェアを推奨しているが、これはコミケが夏と冬に行われるということに起因している。

夏の暑さ、冬の寒さの中で長時間活動することを強られるコミケの環境は実はかなり過酷なものだ。それを快適に乗り切るには、最初から専用に作られたアイテムを使うのがもっとも賢い選択であり、ことアウトドアの世界では性能第一主義が貫かれているために(…そのお陰でカラーやデザインがいまひとつ、という面もなきにしもあらずだが…下着や靴下ならあまり問題ではないだろう)多少思いきった値段であってもよいものを購入すればその分の恩恵はしっかりもたらしてくれるのだ。

例えば、ここまで述べてきたように冬の汗対策は寒さ対策でもあるため、ある意味夏以上の重要性を持っている。

そういった面で夏にも薦めたポリエステル系即乾素材を用いたウェア類は、冬でもそのまま活用できる。

更に冬用にはアウトドアウェアの素材として長い実績を誇るウールや、最新の皮膚から発散される水分を吸収してそれ自体が発熱する化学繊維など、これまた様々な性能のものがある。

ありふれたフリースやダウンにしても、1ランク上でさらに高性能化や収納に工夫が施されたものが揃っている。

興味を持った方は、ぜひ一度手近なアウトドアショップや大型スポーツ用品店を訪れてみよう。ウェアに限らずバッグ類や細かいツール類に至るまで、『使えそう!』『快適にしてくれそう!』なグッズの宝庫であることに驚くだろう。